特別寄稿【令和４年度開校記念日に寄せて】

開校 150 年周年に寄せる思い 150 周年プロジェクト

石原小学校第 25 代校長　　関根　達郎

令和 4 年 5 月 16 日　いよいよ 150 年目の開校記念日が訪れました。今年は 150 周年行事を行います。このようなときに校長を務めさせていただき身が引き締まる思いです。150 周年行事に関してお知らせします。

１　開校 150 年目の年に　150 周年行事を（開校 100 年の時のことを鑑みて）

学校沿革史に昭和 47 年当時の神沼校長先生が創立 100 周年のことについて書いてあるのを見つけました。「昭和４７年は、たまたま本校創立 100 周年に当たり、かねてからその記念行事の計画があったが、6 月 19 日不慮の災害に遭ってその実施を中止せざるを得なかった。」

昭和 47 年は西暦１９７２年です。　今年は２０２２年です。ちょうど 50 年後になります。記念行事（展覧会、運動会）は 1 年後の昭和 48 年（1973 年）に行われていたのです。これにならいその後 120 周年は１９９３年、130 周年は２００３年に行っていたと考えられます。

当時の神沼校長の無念の気持ちを鑑み、今回の 150 周年行事は、１００周年行事を行う予定だった１９７２年の５０年後の２０２２年に行うことにしました。

２　石原小学校の伝統は「人数が多いこと？」「地域の応援があること」

石原小学校は昔から児童数の多い学校です。歴史を調べると「寿司づめ学校」と呼ばれるほど人数が多くそれに比して校舎が狭いということが長く続いてきました。2143 人が最多の児童数を言われています。1 時期は教室数がたりないということでクラスの定員を特別に増やして授業を行ったり、2 クラス合同で授業をしたりしていたことが記録に残っています。先人も工夫に工夫を重ねてきたのです。また、記録では校舎建築の請願・寄贈等、石原町、石原地区の方々が学校に寄せる熱い思いがあったことが沿革誌に残っています。

コロナ禍の令和の時代では市内で一番人数が多いことは圧倒的に不利でした。距離を開ける、リスクを減らす努力はできても、限られたスペースで「密になってしまう」ことを避けることは難しいことでした。そこで、他の学校に比べて対応策を多めに考え、工夫しました。では人数が多いことのよさはないのか？何度も考えました。令和 2 年の 6 月は消毒用アルコールが供給されず、消毒は次亜塩素酸水を利用していました。しかし、その成分を巡って様々な意見が出るなかで思い切って「消毒用アルコール液が足りません」と情報発信をしてみました。ICT を使って遠隔授業するも教室には児童に写す大型テレビがなかったのです。そこで同様に「大きな液晶テレビが足りません」と情報発信してみました。すると消毒

用アルコールを地元の薬局の店長さんが寄付してくださったのです。その後家にある使わなくなった大型液晶テレビや家で買い置きしていたアルコールをつぎつぎに届けていただいのたのです。地元や保護者の皆様のお人柄とは思いますが、比較的早くピンチを脱することができました。また保健室ボランティアに 10 名以上の方が申し出てくださいました。本当に感謝しています。人がたくさんいることがこんなに有利になることを実感しました。今の時代でも地域の応援は熱いものでした。

卒業前に６年生に「石原小学校の自慢は何ですか？」と聞いたところ半分以上に児童が「人数が多い」「友達がたくさんできる」「仲がよい」ということをあげていました。人数が多いことがよいところと言うよさを自覚していることが分かりました。「数は力」これは「石原小学校の伝統のひとつであり自慢なこと」を知りました。

３　「県営熊谷ラグビー場」で新たなスタートを

コロナ禍以前の周年行事・式典では、体育館で厳かに式をおこない熊谷市はじめ地区の代表者とともにお祝いするということだったと思います。今は体育館では全校集会はできません。もし全校児童と一緒にやるのであれば「リモートで実施」という選択があります。しかしそれでは滅多に来ない 150 周年行事が十分なものにならないと考えていました。

そこで PTA 会長さんから大きな提案がありました。「屋外で広くて思い出残る県営熊谷ラグビー場はどうか」ということでした。私はびっくりすると共に、広い会場で集まるためにこれは良案であると感じました。人数の多い石原小がコロナ禍でも安全にできる素晴らしい屋外施設　それが「県営熊谷ラグビー場」だったのです。

広い野外の会場であれば、児童全員が一同に介せるのではないか、そしてその子供たちの支えてきた保護者のみなさん、そして今までの学校を支えていただいていた地域のみなさん、それまで学校のバトンをうけついできた卒業生のみなさんといっしょにお祝いすることが可能ではないかと考えたのです。

今はまだコロナ禍です。人々がずっとコロナ禍で自粛や中止を続けることで失ってしまったものがあります。それは、絆だと思っています。会議やうちわ祭りも 2 年中止していましたが、会議やお祭りの目的はあるはずです。すべては人々の絆や元気のためだと思います。

「対策をして実施！」ポストコロナの新たなスタートをきるのです。

４　どんなことができるか（期待されるプロジェクトの成果）

・子供たちの母校や地域へ意識づけ

150 周年歴史を勉強します。歴史を勉強することは関心が高まるのです。令和 3 年 11 月「石原小の歴史」の授業を行いました。熊谷でも石原地区でも石原小学校でも自分の地元のことを知ってから世の中にでることが大切です。それは、地域への愛と未来の社会を作る基盤になるからです。地元のことについて「何も知らず、何も語らず、何も関心がない」状態でいれば、いずれ地域は衰退します。すでに地方の衰退は日本中で起きています。未来を作

るのは子供たちです。**石原の子供たちに地元や学校に対する愛と誇りを持って欲しかったのです。**

・地元の企業とのコラボ

150 周年記念ロゴマークでは 270 名の応募がありました。校訓書道展でも 200 を超える作品がでました。冬休みに子供だけでなく大人も一緒になって取り組んでくださいました。150 周年をきっかけにちいさなコミュニティが生まれるのです。ロゴマークでは地元企業で石原小卒業生の梅林堂の社長さんが協力してくださり、記念のお菓子パッケージを作成してくださることになりました。感謝しています。かつて「お菓子は人々を笑顔にするツールだ」ということを聞いたことがあります。まさに、150 周年のマークが入ったお菓子は笑顔をたくさん作ることになると思います。

・ラグビータウン熊谷

今回イベントはラグビー場でパナソニックワイルドナイツやアルカス熊谷がふれあいの機会を作ってくれます。これは「ラグビータウン熊谷」として地元のチームと子供たちが仲良くなるまたとないチャンスです。子供たちもワールドカップを開催したレガシーの県営熊谷ラグビー場でこのイベントを経験することは一生の思い出になることもできます。

・地域のつながり

保護者のみなさん・地域のみなさんも同じ経験をすることできます。地域・保護者の話題となって改めて石原小学校のことを知ることができたり、石原小を核に人々がつながるきっかけになったりするかもしれません。

・卒業生とともに

また、卒業生のみなさんが会場に足を運び、昔の仲間・熊谷・石原のことを思い返すことができるかも知れません。同窓会等これを期になにかコミュニティがうまれるかもしれません。こちらもつながりから何かをもう一度はじめるきっかけにはなると確信しています。

・学校の課題を共有、解決へ

地域家庭先輩と集まったところで学校の課題「地域の安全と見守り」等をお願いもする予定です。それが石原小学校・石原地区の未来のためになると思われます。

石原小学校の 150 周年は石原小の今の児童だけでなく、保護者のみなさんも地域のみなさんも楽しんでいただきたいです。卒業生には忘れていた石原小を思い出して友達と連絡を取り合い笑顔になっていただきたいです。何より皆さんが元気になることが大切であると考えています。

５　記念事業経過と今後の予定

（１）**石原小の歴史全校授業**	令和 3 年 11 月
（２）**記念ロゴマーク展　校訓書道展**	令和 4 年 2 月
（３）**記念お菓子パッケージ制作**	令和 4 年 3 月

（４）**記念ソング作成「音楽で元気に！」**　　令和４年６月

（５）**150 周年イベント**　　令和４年７月９日（土）　於　県営熊谷ラグビー場

①児童

・式典　お祝いの式として子供たちに経験をさせます。　歴史を振り返ります。

・子供たち主体のセレモニー　子供たちがメッセージを発信して明るい未来を考えます。
全校直実節挑戦し認めてもらいます。
児童が歌詞を考えてシンガーソングライターに作ってもらった記念ソングをみんなで聞いて盛り上げて元気になります。

・ワイルドナイツと交流　芝生の上でワイルドナイツと交流して楽しむ
綱引き　パス回し　タグとり合戦
普段は入れないラグビー場を経験する

②保護者のみなさん　参観日となります。

③卒業生・地元の方　各自参加　交流。

（６）**校内公開**　令和４年10月～11月　きれいになった２号棟　残された３号棟
歴史の展示、掲示

（７）**記念新聞**（記念誌）令和４年11月
記念誌となる新聞の作成

（８）**式典と歴史の映像が入った DVD 販売（電子記念誌）**
PTA が中心となって DVD の作成

６　おわりに

開校 150 周年事業を実行委員会の皆さんと一緒にはじめたもののやったことのないことに大きな不安があります。しかし、この事業を無事に成功させて、石原小学校に貢献することが校長の私のつとめだと信じています。自分の教員人生をかけて取り組んでいく覚悟です。みなさんの協力なしにはできません。開校記念日の今日、改めて子供たち・教職員・地域・卒業生と共にこの事業を作り上げていこうと強く決意しました。どうぞご支援御協力をよろしくお願いします。